

自己評価票

【自己評価の意義・目的】

自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 19 年 12 月 10 日									
法人名	社会福祉法人 ラポール会									
代表者(理事長)名	辻 君子									
介護保険事業所番号	2	7	7	0	7	0	1	0	4	9
サービスの種類	・ 認知症対応型共同生活介護 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所									
	・ 介護予防認知症対応型共同生活介護 ・ 介護予防小規模多機能型居宅介護事業所									
事業所名称	くみのき苑 グループホーム千寿 4F									
事業所所在地	河内長野市木戸 2 - 33 - 5									
記入担当者職・氏名	(職) 計画作成担当者 (氏名) 米田房穂									
連絡先電話番号	0721 - 50 - 1151									

自己評価項目構成

・理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

・安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

・サービスの成果に関する項目

【自己評価の実施方法】

運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
「評価項目」ごとに評価をしてください。

その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。

少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。

優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。

改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。

利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。

評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	『地域の中で当たり前暮らし』と『人間の尊厳を大切に』を、理念としてあげている。	理念をもう少し具体的にし、全職員が理解しやすく、実行しやすい内容に変えていきたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念を、全職員に年度始めの全体会議で話し、理念を周知してもらう様にしている。理念を基に、事業計画を立てている。今年度は、計画のうち少ししか実現出来なかった。	新人職員に特に周知してもらう必要がある為、入社時に、個人的に説明を行う。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	平成19年より自治会に加入している。自治会議、自治会行事にも参加している。地域のスーパーなどを利用し、馴染みの関係を作る様に取り組んでいる。施設見学を行ったり、毎週、西友にて説明会を行っている。	自治会以外で、地域の方が気軽に遊びに来てくれる様な取り組みを考えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	買い物などで外出した折など、あいさつを進んでいる。	平成19年に自治会に加入し、施設や入居者への理解や関係作りに取り組んでいる中で、徐々に関係も出来てきているので、次の段階として、気軽に立ち寄って頂ける関係を目指した取り組みをしたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会に加入し、地元の人との交流の一環として、地藏盆、もちつき大会などに参加している。	入居者と地域の方と関係のパイプラインになれる様に、まずは、全職員が地域の方に覚えて頂く必要がある為、地域の掃除など、勤務に負担が無い程度に参加してもらいたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域のボランティア活動に参加し、認知症予防の体操や認知症についての話などおこなっている。		左記の事を、継続したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価後の評価表を、全職員に伝えているが、すべての事を具体的に改善策を立てて取り組めていない。記入する書類が多いという意見があったので、書類を減らす様に取り組んだ。		職員の状態に合わせて、出来る所から、ひとつずつ改善していきたい。特に、職員の負担になる事務的な仕事や入居者のケアの部分、取り組みたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子や行なっているケアを話すも、家族様からの意見があまり出てない。出た意見については、その場で話し合い、朝礼で、職員やリーダーに伝えている。		家族様をもっと話しやすい雰囲気作りを考えて、取り組んでいきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の会議や勉強会にも、勤務が都合つく際は、参加している。		左記の事を、継続したい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な方に対しては、活用して頂く様に支援しているが、学ぶ機会を作る事は、出来ていない。		職員に、外部研修があれば参加してもらい、今後、内部研修も開いていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設で起こった虐待や虐待資料を各階に配り、朝礼で話している。研修にも参加してもらっている。		グループホーム内で起こりうる虐待を、事例形式の内部研修を行ないたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>必要事項は、読み上げ説明している。不明な点や不安な点があれば、いつでも相談頂ければと、家族様に、伝えている。</p>	<p>左記の事を、継続したい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々生活の中、入居者が何を望んでいるか、意見、不満、苦情に耳を傾けるよう様に、指導している。出た意見は、必ず上司に報告入れてくれている。報告や日誌にそういう内容があれば、上司も入居者と話す機会を作っている。</p>	<p>左記の事を、継続したい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用者の、暮らしぶりや健康状態、金銭管理や、受診前後等、個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>左記の事を、継続したい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関、各階に、意見箱を設けている。頂いた意見を苦情受付表に記入し、改善策を考え、各階に伝えている。</p>	<p>左記の事を、継続したい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常時もしくは必要に応じて、意見や提案を聞く機会を設けている。</p>	<p>左記の事を、継続したい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>基準に満たすように、話し合い、勤務調整は行なっている。利用者や家族の要望に必要であれば、必要な時間帯に、他の階の職員も、協力し合い行き来し、職員の人員を確保している。</p>	<p>左記の事を、継続したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動については、職員にも話を聞き行なっている。入居者に影響が無い様に、最小限の異動にしている。</p>	<p>左記の事を、継続したい。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員一人一人が、自分の目標を定め、各々の課題に意欲的に取り組むことで、能力の開発を目指し、人材の育成につとめている。内部研修や外部研修があれば、積極的に参加できる様にしている。</p>	<p>左記の事を、継続したい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>当苑でグループホームの勉強会を行い、他のグループホームの方たちと交流する機会を設けている。地域ネットワーク会議にも参加している。</p>	<p>左記の事を、継続したい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者、リーダーは、定期的4ヶ月に1回、話が聞ける様に面接をおこなっている。</p>	<p>業務的な面での負担の軽減への改善や面接では、言いにくい精神的ストレスに対しての軽減についても、取組んでいきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年に2回人事考課を行い、それを基に面談をおこなっている。その際に、目標を立ててもらい、取り組んでもらう仕組みにしている。</p>	<p>左記の事を、継続したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>重点的に新規入居者の方との関わる時間をとり、入居者の方自身が職員を認識し、需要できるよう、過度なかわりにならないように配慮しながら自身の訴えを傾聴している。</p>	<p>マンパワー不足が目立つ。職員個々の潜在的能力に頼っており、基本的な職員研修が不足している。基本事項の見直し、徹底を行えるよう職員の充足、余裕をつくりたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>職員から声を掛けさせて頂き、入居前後の状況を傾聴する中で、ご家族の不安、訴えを掘り起こしを行っている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所後間もない状況では、入居者の方の生活状況のみならず、ご家族への職員の気付きの点を確認や情報提供の協力をご家族にお願いしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者の方自身が選択、意思決定できるよう配慮している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の方自身が出来ることを見極め、一方的な支援の押し付けにならないよう配慮している。</p>	<p>入居者の方自身の出来ること、使用とされることに職員が先回りしない、ともに行っていく「共生」支援を行っていききたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に面会や機会毎に入居者の方の状況、特にうれしい出来事を伝え、ご家族が安心し、改めて面会や入居者の方との時間を過ごせるよう、過ごし易いよう配慮している。		ご家族が思い立ったときにいつでも入居者の方と面会や外出・外泊が出来るよう配慮していきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に面会や機会毎に入居者の方の状況、特にうれしい出来事を伝え、ご家族が安心し、改めて面会や入居者の方との時間を過ごせるよう、過ごし易いよう配慮している。入居後の入居者の方の生活を理解していただき、ご家族の大切さを伝えている。		入居者の方とご家族の関係修復(?)の一助を担えたらと考えている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会時には可能な限り対応。入居者自身の理解度、ご家族の意向もあり、馴染みの関係の継続は難しい。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の方自身が選択し、関係を作る下地作りに努力している。また、関係の悪い入居者間には関係が悪化しないよう適度に職員が介入している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お見舞いや面会、行事への招待他を通じ、関係の継続を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者本位に検討している。パーソンセンタードケアに努力している。徐々にレベル低下の見られる方の対応に苦慮している。今まで出来ていたことが出来なくなることに対する自身の理解に職員が適切に介入している。</p>	<p>今まで出来ていたことが出来なくなることに対する自身の理解に入居者の方自身が不安にならないよう、職員がいつ、どれだけ、どの程度介入すればいいのかを瞬時に見極めて介入できるようにしていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居者の方自身のしぐさ、言動はもとより、ご家族への情報提供の協力もお願いしている。また、入居後の生活の中での職員の疑問についても逐一ご家族へ問い合わせをさせていただき、入居者の方の生活の把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の入居者の方の状況を把握し、全体との関わりを把握するよう努めている。また、全体の中での入居者自身の位置関係の把握にも努力している。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画についてはフロア職員での話し合いを中心に計画し、ご家族に明示し意見を求めている。また、見直し期間にこだわらず、必要に応じてその都度見直しを行って、より個々の入居者のその場に必要とされている支援に近いものを提供できるよう努力している。</p>	<p>介護計画の意味を再確認し、チームケア・チームアプローチが出来るチーム作りをしたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的見直し、必要に応じた見直しを心掛けているが、出来ていない。</p>	<p>現状に即した介護計画の見直しを定期的に行い、個々の入居者の方の支援をよりよいものに出来るよう努力したい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の入居者の記録や情報が介護計画にフィードバックできるよう努力しているが、出来ていない。		詳細な情報が介護計画に活かせるよう、介護計画と記録や情報のコーディネートを図りたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所のみならず、事業団全体での対応を行っている。		近隣の小規模多機能施設の有効利用。事業団本部の協力体制（特に医務）もある。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて関係機関へ来苑他の依頼している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	十分に出来ていない。		現在、検討中。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	出来ていない。		現在、検討中。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	本人及び家族等の希望を大切にし、行っている。		現在は青山第二病院にて受診。受診時の送迎、付き添いを行っている。
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	嘱託医が定期的に往診していただいている。その際、職員の疑問や相談にも応じてもらっている。		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	医療連携体制をとっている。		現在、検討中。
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	連絡調整を行なっている。		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	御家族様との話し合う機会を設けている。		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	同法人内の医務室と連携し、医療的な分野から検討、準備をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居前の事前情報の収集に努めている。また、入居後も必要に応じて職員がご家族へ電話や面会時に口頭にて情報の提供を依頼している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーを意識し、個人情報の厳守に努力している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者自身の自己選択、自己決定に努め、入居者の方が納得されるような関わりを常に意識し、不安が少しでも和らぐような関わりに努めている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>パーソンセンタードケアを意識し、個々の入居者の生い立ち、生活歴を意識し、その人らしい暮らしの支援に努力している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>個々の方の好みは意識しているものの、個々の希望の店には完全に応じ切れていない。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を食事のみとして捉えるのではなく、食事の前後も食事の一環として捉え、準備から調理、片付けまで職員と一緒に、入居者の方が主になるよう関わっている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の嗜好を把握し、可能な限りその意向に添えるよう努力している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の入居者の状況を理解し、個別の排泄介助に努力しているが、排泄パターンが把握できていない方もあり、個人のプライバシーに配慮しながら支援に努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望に添えるよう入浴時間の拡充を図ってはいるが、完全に希望には添えていない。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の入居者の方が周囲に気兼ねなく個人のペースで休憩、就寝できるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の入居者の方の役割分担は意識しているものの、完全には入居者の方全員に役割分担が出来ていない。		個々の入居者の方へ楽しみ、喜びが提供できるよう努力したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に協力をお願いし、個々の訴えがあった場合に金銭の所持を自己管理にて行なっている。所持されない方についても日常の買い物のときに支払いをお願いしたり、金銭を使用することを意識できるよう工夫している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り個々の入居者の方の意向に沿えるよう努力しているが、個々の意向にはあまり沿えていない。		個々の入居者の方の外出の希望を叶えたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	機会毎に職員より働きかけを行い、自身の選択によって参加を行っている。ご家族の申し出があった場合、優先的に意向に沿えるようにしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節には職員から入居者に働きかけ、ご家族への頼りを出すよう勧めている。また、ご家族他からの書簡については遅滞なく入居者の元へ届くよう心掛けている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者に対する面会他については入居者自身の体調に配慮し、可能な限り入居前の馴染みの関係の継続に努力している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	バリデーションを入居者とのかわりに用い、特に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関以外は鍵を掛けないケアが出来ている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮し、安全確保につとめている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の方自身のその場その場の状況を確認したうえで、物品をよけたり、元の位置に戻したりし、入居者の方に対してはその都度説明を行い、入居者の方の理解・認識も行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の方の状況に応じてきざみ食や歩行器、車椅子、押し車を使用。また、ナースコールマットやチャイムも使用している。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを設けている。また、事業団本部医務への協力体制も作っている。さらには外部研修への参加も行い、参加した情報を現場へフィードバックするよう努めている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、非常訓練を実施している。また、事業団本部医務の協力にて緊急時の救急救命の講習を行ったり、日々職員の意識づけを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	外部研修の利用を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルの測定を行っている。入居者の方の状況に応じて、必要毎にバイタル測定を行って、以上があれば速やかに看護師の相談、受診を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療用ファイルの作成にとどまらず、フロア職員が理解しやすいよう処方箋ファイルを作成し、与薬の処方変更にも柔軟に正確に対応できるようにしている。与薬後の体調変化は速やかに看護師に相談、支持を仰いでいる。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	常に便秘を意識している。運動については個々の入居者の方の意識が主になってしまっている。食事については和食を中心に食物繊維を意識して取れるよう努力している。排泄についてはあまり与薬に頼らないよう、酸化マグネシウムを中心に長期に排泄がない場合のみ看護師に相談対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の入居者の状況に応じて、毎食後声掛け誘導を行っているが、入居者の方自身がうがい、歯磨きを行っておられるため、十分に出来ているかは不明。		誤嚥性肺炎に代表されるように、職員の関わりが入居者の方の身体状況に及ぼす影響を考えて必要な支援を提供したい。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	和食を中心に入居者の方の嗜好から食事を考えている。栄養面ではバランスよく摂取されているかは判断が難しい。入居者の方が満足できる食事提供を行っている。水分については1人当たり1日1.8ℓを意識しているが、強制にならないように努め、個々の入居者の方の身体状況により、配慮している。		湯のみ1杯を100cc、汁物1杯についても100ccとやや過小評価にて対応している。記録されている水分以上に摂取されるよう努力している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外部研修を行い、その研修を参考にフロアにて職員間で話し合いを持ち、職員個々が意識して予防・事後対策が出来るよう努めている。		食事の取り置きは調理後2時間までとしている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は品物によって、冷蔵庫保管や冷暗所に保管している。調理器具は洗浄・乾燥を心がけ、塩素系漂白剤を使用したり、市販の除菌スプレーを有効に使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	和風モダンを意識し、小物の利用や家具を利用し、改装でない工夫を行っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	消臭、清潔に努力し、ポスターやおもちゃを利用して季節を感じられるような工夫を行っている。採光や遮音についてはカーテンやヒーリング音楽を利用している。		個々の入居者の方の嗜好が違うため、難しいが共有部分全体として捕らえるのではなく、部分的捉え方を考えていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペースだけではなく、ソファ・テーブルを設置、また、職員が家具を製作し、個々の入居者の方が自ら居場所を求め、選択できる工夫をしている。		入居者の方がいつでも、どこでも、誰とでもくつろげるよう、選択肢をもっと広げたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の入居者の方が使用されていたもの、大きな家具のみならず、写真1枚でも各居室に持参していただくよう、ご家族に協力依頼している。大きな家具類については搬送の協力も行っている。また、入居後にも個人の嗜好からポスターの掲示他工夫をしている。		ご家族への協力の継続。日常の生活や外出中での発見した嗜好を入居者の方自身の居室に取り入れていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気を意識し、共有スペースを中心に行っている。温度調節は職員の皮膚感覚にプラス1～2を目安に行い、入居者の方の状況を判断し、さらに微調整をしている。		入居者の方自身にも協力を求め、居室内も換気のみならず、適度な空調を行っていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、入居者個々の状況から、押し車や車椅子、歩行器を使用している。		入居者の方個々の詳細な状況に応じた対応が出来るよう、選択肢を広げたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日常の家事を主に、入居者の方が出来ることを職員が見守りながら、それぞれの役割分担を行っている。		役割を増やし、入居者の方自身が自身の意思で選択、決定できるようにしたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランター菜園は設けているが活用できていない。		草花ではなく、野菜を中心に、ベランダ菜園の有効な活用をしていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの ○<u>利用者の1/3くらいの</u> ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある ○<u>数日に1回程度ある</u> たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者が ○<u>利用者の2/3くらいが</u> ○<u>利用者の1/3くらいが</u> ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<p>ほぼ全ての利用者が ○<u>利用者の2/3くらいが</u> ○<u>利用者の1/3くらいが</u> ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者が ○<u>利用者の2/3くらいが</u> ○<u>利用者の1/3くらいが</u> ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者が ○<u>利用者の2/3くらいが</u> ○<u>利用者の1/3くらいが</u> ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者が ○<u>利用者の2/3くらいが</u> ○<u>利用者の1/3くらいが</u> ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族と ○<u>家族の2/3くらいと</u> ○<u>家族の1/3くらいと</u> ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 ○<u>たまに</u> ほとんどない</p>

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている ○ 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

近隣に同一事業団の小規模・多機能施設があり、グループホームの入居者の方にも広く門戸を広げている。グループホーム入居者の方の近隣施設利用を受け入れ、日常的に利用可能としている。また、隣接市に事業団の本部もあり、入居者の方の生活支援のフォローを可能としている。地域参加については地元自治会に入会し、地域の一員として地域活動・地域行事への参加も支援している。日常においても地域のスーパーを利用し、日頃から地域にグループホームに入居されている方と地域の方の顔見知りのな関係がスムーズに、自然に行えるよう努力している。